

全国登山者自然保護集会概要 (1976) 第1回 石鎚山集会

期 日	1976 . 10 / 9-11	場 所	愛媛県面河村 面河少年自然の家	参加者数	131 人
主 管	愛媛県連盟	協 賛	愛媛の山を守る会		
日 程	9 日 19:30 開会集会 20:00 基調報告 21:00 現地報告 22:00-23:00 交流会		10 日 7:30 現地調査 18:00 現地報告 19:00-22:00 分科会		11 日 8:30 分科会 11:00-12:00 閉会集会 13:00 解散
調査登山	石鎚山（46 人） 瓶ヶ森（38 人） 面河本谷（14 人）の 3 コース 1965 年に開通した石鎚スカイライン工事は、面河溪谷を土砂で埋め、破壊ラインとして全国的に有名になった。このスカイラインから瓶ヶ森にスーパー林道が伸びており、新たな自然破壊が危惧されている。調査登山ではこれらの地域を 3 コースに分かれて実態を視察した。				
基調報告	過疎問題について（長野；和田蔵次） ビーナスラインや南アルプススーパー林道の運動を例に、自然保護運動の重要な課題として過疎問題をあげ、運動の方向を提起する。 自然の再認識（富山；伊東保夫） 立山連峰を例に、仰ぎ見て拝んだ時代から、山岳信仰、近代登山、観光登山に至る、人間と山とのふれあいや問題点等に触れ、自然の再認識の必要性を訴える。 登山者と自然保護運動（兵庫；藤元田美男） 兵庫県連盟の運動を紹介しながら、登山者の自然保護運動の必要性を述べる。 自然保護運動の課題（東京；鈴木貫太） 奥多摩・天祖山石灰石採掘反対運動の経験から、過疎問題、法体系、環境アセス、行政の姿勢等とその対応について述べる。				
分 科 会	観光開発と登山要求、自然の再認識（34 人） 清掃登山運動のノウハウから入り、自然の素晴らしさを理解してもらうための登山者の役割、観光開発が正しい自然の認識になるか等について話し合う。 過疎問題について（24 人） 過疎地域では住民の開発志向が強く、どこでも自然保護運動と対立している。本来、住民の生活向上の要求と自然保護は矛盾するものではないのに、巧妙に対立させられていることについて話し合う。 登山者と自然保護運動（28 人） ゴミの持ち帰り運動の討論から、登山者が何故自然保護運動に取り組むかについて話し合う。				
現地報告	壊れたスカイライン（8 ミリ映写）；峰雲行男（全国自然保護連合理事） 瓶ヶ森林道、面河溪谷スライド；愛媛県連盟 愛媛県の自然保護運動の現状報告；古川一郎（愛媛の山を守る会） 三嶺の自然保護；山本正彦（三嶺の自然を守る会）				
集会決議	ビーナスライン美ヶ原線の建設阻止を求める特別アピール 石鎚山系の自然保護を求める決議 76 石鎚山集会アピール —— “登山者は緑の番人になろう” と宣言				
集会の特徴	この集会は登山者の自然保護運動の高揚を狙って、全国登山者研究集会の自然保護の分科会を独立させたものである。自然保護を目的とする登山者独自の全国的な集会は我が国で初めての試みで成否が心配されたが、組織内の全国的な盛り上がり、主管県連の熱意で成功した。大規模な調査登山や全国の登山者の交流と連帯は登山者の集会に相応しい成果をあげた。 この集会では、“登山者は緑の番人になろう” と呼びかけ、労山の自然保護運動に大きく貢献しただけでなく、以降の集会の雛型となった。				

全国登山者自然保護集会概要 (1977) 第2回 美ヶ原集会

期 日	1977 . 11 / 11-13	場 所	長野県下諏訪町 高木公民館	参加者数	113 人
主 管	長野県連盟	協 賛	長野県山岳協会、長野県自然保護連盟		
日 程	11 日 19:00 開会集会 19:30 記念講演 20:30 各地報告	12 日 8:30 現地視察 13:30 基調報告、特別報告 19:00 分科会	13 日 8:30 分科会 11:30 全体集会、閉会集会 12:10 解散		
現地視察	ビーナスライン（60 人） 1972 年のビーナスライン美ヶ原線反対運動は、大衆的な自然保護運動の草分けとして有名、この運動で計画は中止になったが、県企業局はルートを変えて着工を強行した。現地視察では、その工事とその後の観光開発の状況を把握し、ビーナスラインによる自然破壊の認識を深めた。				
記念講演	登山と自然の再認識について（芹沢洋一） 自然のない生活は人間の生活ではないこと、現代のエコロジーの中で、水や空気等の汚染は、ともすれば被害者が加害者でもあるので“自己抑制”が必要であること、自然保護は人間のため、地球のため、他の生き物たちのために有効であり、行き過ぎでない運動であること等。				
基調報告	登山者と自然保護（奈良；前 圭一） 清掃登山から大峰の自然保護運動へのかかわり、県連の自然保護ニュースの発行による会員への啓発効果等について報告。 過疎問題と観光開発（長野県農業農民問題研究会；古川 徹） 過疎による生活破壊からくる開発志向の問題、長野県企業局は観光開発の先頭に立っているが、台所は火の車であること、自然保護運動を進めるには清掃登山から出発して、農民と共に農作業をすることで発展するだろうこと等を述べる。 登山要求と自然の再認識（兵庫；藤元田美男） 自然とは何か、新しいレジャー感の確立、登山文化の創造等について述べる。				
分 科 会	登山者と自然保護運動 清掃登山の教訓と、他の多面的な自然保護の活動を進めるためにはどうするかを柱に、登山者としての自然の把握、緑の番人としてのアピール、市民に対する啓蒙活動等話し合う。 過疎対策と観光開発 自然保護活動は地元住民のことを考える必要があること、そのために地元住民と交流し、相互理解を深め、地域政策の変革を求めるような運動が望ましい等について話し合う。 登山要求と自然の再認識 自然に接することは“やすらぎ”を覚えることであること、自然には受身でなく積極的に創造的に接することが新しいレジャー感を確立し、自然破壊の歯止めになること、豊かな登山文化の追求には豊かな自然であることが望ましいこと等について話し合う。				
特別報告	奥志賀高原の開発について（長野県自然保護連盟；隅田隆太郎） スイスにおける自然保護政策（労山名誉会員；伊藤正一） 南アルプススーパー林道を巡る当面の情勢（南ア自然保護連合、信大助教授；伊藤精吾） 悪魔の道・ビーナスライン（長野県自然保護の会；市川）				
集会決議	「ビーナスライン美ヶ原線」、「南アルプススーパー林道」の建設中止を求める決議 77 美ヶ原集会アピール				
集会の特徴	労山の自然保護運動の先進的な地域で行われた集会で、長野県内の多くの自然保護団体代表の協力で、幅広い自然保護運動の交流の場となった。参加者は長野県内の労山会員の割合が多かったが、全国集会としての方向性が定まった集会となった。				

全国登山者自然保護集会概要 (1979) 第3回 薬師岳集会

期 日	1979 . 9 / 22-24	場 所	富山市 富山県青年の家	参加者数	121 人
主 管	富山県連盟	協 賛	全国自然保護連合、立山連峰の自然を守る会		
日 程	22 日 8:00 富山駅集合 11:30 折立より登山 16:00 太郎小屋(泊) 19:00 交流会	23 日 5:30-14:00 現地視察 薬師岳往復後折立へ 18:00-21:00 記念講演、基調報告	24 日 8:00-12:00 分科会 13:00-15:00 まとめの集会		
調査登山	折立より薬師岳往復（82 人） 太郎平登山道は、踏み荒し対策として、ショベルカーを空輸して側溝を設け遊歩道的に整備したが、これが引き金になって凄まじい二次破壊をもたらした。調査登山ではこの実態視察を目的としたが、参加者の要望を受け入れ薬師岳まで足を延ばした。雨の中を 2 日間かけて 3000 級の山を踏査するという強行日程だったが、予定通り下山して集会とリンクさせた。				
記念講演	立山連峰の自然保護（立山連峰の自然を守る会・富山大学教授；河野昭一） 立山連峰の自然保護問題について、道路建設による直接的な破壊、土砂流出による二次的な影響、年間 100 万人にもなる観光客による汚染、グレンデスキー場化した春山・夏山スキーによる問題等について、スライドを交えて講演。				
基調報告	石鎚スカイラインをめぐる観光開発と自然保護（愛媛；天野義之） 過疎対策としてのスカイラインだったが、地元への経済効果が小さいだけでなく、県は累積赤字 13 億円の他、災害復旧費 16 億円が必要になっている等。 東北新幹線「八甲田トンネル」と水資源汚染問題（青森；蒔苗政義） 新幹線計画と自治体、市民、科学者の取り組みについて 1 周年を迎えた「六甲山からゴミを一掃する運動」報告（兵庫；藤元田美男） 兵庫県連の自然保護運動紹介と毎月定期的に取り組んでいるゴミ一掃の取り組み報告。 過疎問題と自然保護問題（長野；森田） 過疎問題を名目にする開発計画の実態と自然保護運動のあり方について 立山の観光開発と現状（富山；伊東保夫） 立山を例に、その利用実態と自然保護問題、山岳観光のあり方を問う 滋賀県における清掃登山運動の現状（滋賀；寺川庄蔵） 清掃登山運動から実践的な自然保護運動に発展させた報告と今後の課題・展望について				
分 科 会	登山者と自然保護運動 各地の清掃登山の経験交流と運動の発展の方向、学者・研究者との交流等について 地域政策と自然保護 各地からの報告では国や自治体の地域政策に便乗した開発や予算消化の開発が多いというのが共通点であった。基調報告の都会人的な発想の自然保護運動ということでも多くの意見が出た。 観光開発と自然保護 林道の問題と国立公園利用の問題が話し合われた。林道については奈良の大峰、白山スーパー林道、氷ノ山、鳥海山等の例が報告されたが、目的は観光道路で、これらの道路が地元にもたらすのは利益ではなく、ゴミとホコリだけであるという指摘が一般的であった。				
集会決議	アピール『山からゴミを一掃しよう』 79 薬師岳集会宣言				
集会の特徴	調査登山に 2 日間を費やし、集会は 2 日目の夜からという強行日程で、登山者でなければできない自然保護集会であった。調査登山では一般の観光開発とは異なる登山者自身の踏み荒しの問題や整備手法がクローズアップされた。また、各地の清掃登山運動の発展を反映し『山からゴミを一掃しよう』のアピールが採択された。このアピールは 1980 年 3 月の労山第 14 回総会で決議され、全国的な清掃登山運動の発展に寄与した。				

全国登山者自然保護集会概要 (1981) 第4回 八甲田集会

期 日	1981 . 8 / 22-24	場 所	青森県 酢ヶ湯温泉	参加者数	126 人
主 管	青森県連盟				
日 程	22 日 10:00-16:00 調査登山 19:00-21:00 交流会	23 日 9:00 記念講演、基調報告 13:30 分科会 18:30 記念講演	24 日 9:00-12:30 総括集会 閉会集会		
記念登山	北八甲田山(54 人)及び南八甲田山(19 人) 台風接近で雨模様の中を、2 コースに分かれて登った。登山中に雨足が強くなり、北八甲田では通常はひとまたぎで横断できるのに胸までの深さに増水した小沢の渡渉を余儀なくされ、豪雨時の山の恐ろしさを知らされた。				
記念講演	八甲田山の自然と保護(青森・カモシカ生活史研究会代表:工藤樹一) 八甲田山の自然と植生を中心に詳しく説明し、ロープウェイ建設に伴う湿原破壊の状況や、八甲田山保護の今後の課題等について講演。 チョーオユー峰に挑んで(労山チョーオユー登山隊隊長:小松 猛) 1981 年春の日本・ネパール合同登山についてハミリ映写と講演。				
基調報告	登山者と自然保護(兵庫;久保富三夫) 六甲山からゴミを一掃する運動と芦屋ロックガーデン階段化反対運動での兵庫県連の運動を紹介しながら、自然保護は労山の存在意義をかけた取り組みであることを強調する。 過地域政策と自然保護(東京;満川常弘) 高度成長や国有林増伐と外材輸入による林業、山村問題、山岳自然保護問題に対する対応、山岳自然保護運動論等について。 青森県の開発計画、農業問題(青森;松山 力) 青森県における開発計画を紹介し、大企業と観光開発による自然破壊や農業問題の報告。 観光開発と自然の再認識(大阪;宮崎隆介) 大杉橋吊橋事故で、管理責任を問う訴訟を起こした大阪の「山と友の会」とそれを批判する「大台ヶ原・大峰の自然を守る会」の論争を例に、登山施設と自然保護、大衆登山と安全問題について言及する。 八甲田山の巨大スキー場開発計画(青森;棟方平三) 八甲田山の大规模スキー場開発計画と自然保護問題についての報告				
分 科 会	登山者と自然保護 登山者が何故自然保護に取り組むのか。特に、最近各地で取り組まれている清掃登山の意義と自然保護運動に対する役割について、登山者の自然保護運動の展望について。 過疎政策と自然保護 自然保護と密接な関係にある、国や自治体の地域政策(過疎対策)と住民の対応、登山者の運動について。 観光開発と自然の再認識 観光開発の実態認識と、新しいレジャー観の確立と自然保護、登山文化の創造等について。特に、大杉谷吊橋事故を例に大衆登山と安全性、自然保護の問題について。				
特別報告	八甲田山の自然:ハミリとスライド映写 新幹線開通に伴う開発について				
集会決議	八甲田山の巨大スキー場開発反対と湿原の保護を求める決議 81 八甲田集会宣言				
集会の特徴	交通の便や周辺の県連の組織力量からどの程度集まるか心配されたが、これまでの集会と同じ規模となり、東北の温泉ならではの心温まる集会となった。東北地方における組織活性化と自然保護の発展の狙いが成功し、以降も東北地域では活発な自然保護運動が展開されている。				

山のゴミを考えるシンポジウム (1982) 京 都

期 日	1982 . 6 / 27	場 所	京都市 京都大学土木総合館	参加者数	255 人
主 催	日本勤労者山岳連盟と環境科学総合研究会（日本環境学会の前身）の共催				
主 管	京都府勤労者山岳連盟、環境科学総合研究会京都支部		後 援	日本自然保護協会、京都市	
日 程	司会 環境総研；倉知三男、労山；高島祐次 10:00 - 10:10 開会あいさつ環境総研代表；本間 慎 10:10 - 10:40 特別報告		10:00 - 14:50 報告（8 人） 15:00 - 16:50 総合討論 16:50 - 17:00 まとめと閉会あいさつ		
特別報告	京都市空カン条例について（京都市清掃局環境美化対策室長；柴山 章夫） 条例制定の背景や経過、デポジット制度をめぐる動き、条例の内容等について説明し、条例の限界と国として制度確立の必要、リサイクル容器(PET ボトル)発生の問題が生じていることを述べる。				
報 告	六甲山からゴミを一掃する運動（労山兵庫県連；久保登三夫） 1978 年 10 月以来(5 年間)、毎月六甲山で実施した活動を総括し、山のゴミは清掃活動で少なくなっただけでなく、統計的に投棄量も減り持ち帰り人が多くなっていると報告。市民や関係者の協力を求めながら、自治体や企業にしかるべき責任を求め、ゴミ持ち帰りを社会的な常識にしようと訴え、ゴミの行方やりサイクル、売るだけの企業の責任、便利さだけを求める生活にも言及した。 滋賀県における清掃登山活動（労山滋賀県連；寺川 庄蔵） 1973 年 4 月に 33 人で始めた比良山における清掃登山が、10 年目をむかえ、1 市 9 町の協賛を得て 700 人も参加する大規模な県民運動までに発展し、他の自然保護分野でも重要な役割を果たすようになったと報告。大規模な宣伝活動やカンパを募り準参加者扱いにしたこと、自治体交渉を積極的に進めたこと、一環事業として自然保護岳集会、水質調査、空カン分類調査を進めてきたからと報告。 立山連峰のゴミと雷鳥、剣岳三ノ窓のゴミ問題（立山連峰の自然を守る会・労山富山県連；伊東保男） ゴミの量を 1 人あたりに換算すると、立山地区(観光客と登山者)が 99 g、黒部地区(観光客)51 g、薬師岳・奥黒部地区(登山者)120 g で、最も多いのは観光客でなく登山者と報告。また、富山県連として危険な岩場である剣岳三ノ窓で清掃登山を実施しているが回収しきれないゴミがあると報告。 上高地を美しくする会とその活動（東京農工大学一般教育部；山本 信雄） 環境庁の補助を受けた清掃活動の報告とゴミ持ち帰り運動の問題点や今後の課題について報告。 山のゴミと生態破壊（京都大学農学部；渡辺 弘之） ゴミがもたらす動植物への影響、特に問題なのが排泄物で困難、垂れ流しになっていると報告。 ゴミ問題とリサイクル（京都大学経済研究所；植田 和弘） ゴミリサイクルの必要性を力説し、その条件と阻害要因、リサイクルへの誘導等について主張。 山岳自然の適正利用と費用負担（法政大学経済学部；永井 進） 利用と保護費用の負担論を展開し、そこで利益を得る人、少なくとも事業者は負担すべきだと主張。 山のゴミ問題と責任の所在（早稲田大学法学部；利根川治夫） 山のゴミ問題について分析し、責任の主体を『 (1)登山者や観光客；適切に処理困難でないとするれば第一義的な責任。(2)国及び自治体；ゴミが散乱している事実があるのだから法的に具体的でかつ有効な対策を講じる義務。(3)山小屋や観光業者；無償で利用しており適正に保全する責任。(4)飲料カン等の製造業者；山で適正処理困難な商品でない場合に責任がある』と分類した。				
総合討論	清掃登山の位置付けや、山のゴミの責任の所在、登山者教育や環境教育、未組織登山者の組織化の必要性、運動団体と研究団体の連携の必要性等が話題となった。				
ま と め	まとめ（労山自然保護委員長；鈴木 貫太） 労山の清掃登山運動と本集会の意義、今後のとりくみについて述べ閉会のあいさつとする。				
集会の特徴	運動団体である労山と研究団体である環境総研の共催で開いた集会で、「山からゴミを一掃しよう」とのアピールを採択して運動を進めている労山の活動を理論化するものなり、その後の活動に大きな役割を果たした。参加者は労山会員 223 人の他に、山と友の会(3)、城陽山歩会(2)、府岳連、ヤマゴ同人、八丁平の自然を守る会(2)、ゴミをひろう市民の会、環境庁レンジャー、清掃会社、マスコミ関係者(6)等で、社会的な関心の大きさを示した。 なお、この集会の報告は、「環境科学総合研究会(現；環境学会)」発行の『人間と環境』1982.VOL 8 NO. 2（1983 年 1 月 25 日発行）に収録されている。				

全国登山者自然保護集会概要 (1984) 第5回 比良山集会

期 日	1984 . 9 / 14-16	場 所	滋賀県高島町 役場、その他	参加者数	193 人
主 管	滋賀県連盟	後 援	高島町		
日 程	14 日 9:30-16:00 調査登山 20:00-21:00 開会集会	15 日 9:00-12:00 記念講演、基調報告 13:00-16:30 分科会 19:00 特別報告、交流会	16 日 9:00-11:00 分科会 11:00-12:00 記念講演 13:00-15:00 閉会集会		
調査登山	びわ湖パレイ(8人)、武奈ヶ岳(26人)、八淵の滝、北比良(8人)、正面谷(8人)の5コースに分かれて、自然保護のアピールやコノヤマ岳ロープウェイ計画反対の旗を掲げながら比良山一帯を踏査し、自然保護問題を視察した。				
記念講演	琵琶湖総合計画と自然保護(弁護士:水野武夫) 琵琶湖の概要と進行中の開発優先の計画「琵琶湖総合計画」について講演。 登山における今日的な課題(労山副会長:戸田園雄) 登山の歴史と今日の登山者が果たすべき社会的な使命について講演。				
基調報告	地球環境の破壊と自然保護(長野;和田蔵次) 82 労山ヒマラヤ環境問題調査報告と、ヒマラヤ自然破壊の原因、登山者の役割等。 清掃登山の展望(滋賀;寺川庄蔵) 清掃登山の意義と近畿一斉清掃登山の宣伝効果、全国的な集約の必要性。ヒマラヤ清掃登山の呼びかけ等。 観光開発と過疎問題(北海道;小山健二) 日高中央横断道路建設計画と大雪縦貫道路の違い、北海道開発局の延命策、新たな観光開発と過疎問題等。 産業廃棄物処分問題(兵庫;藤井宗平) 兵庫の自然保護運動の概要と芦谷川産業廃棄物処分場計画の問題等について。 都市近郊の自然保護と自然の再認識(大阪;新保満子) 都市近郊の自然の状況と大阪の里山動物調査の意義、展望等について。				
分科会	地球環境の破壊と自然保護(95人) 地球規模の自然破壊、ヒマラヤの自然保護のために登山者自身の心構えの必要性等について。 清掃登山の展望(37人) 清掃登山のマンネリ化対策、清掃登山と自然保護運動、ゴミ発生源対策、ゴミの処分対策等。 観光開発と過疎問題(29人) 各地のスキー場開発、観光登山の要求の原因、過疎地との触れあい、観光施設最近の動向等。 産業廃棄物処分問題(18人) ゴミの行方、生活の変化とゴミ問題、行政と企業責任等。 都市近郊の自然保護と自然の再認識(26人) 里山調査の狙い、清掃登山からの脱皮、人工自然事業の問題、大型プロジェクト問題等。				
特別報告	琵琶湖破壊の記録映画「オレの見たびわ湖」(中島省三制作) 青秋林道建設反対運動(青森;蒔苗政義) 奥鬼怒スーパー林道予定地調査報告(栃木;高村文夫) 剣岳三ノ窓清掃登山の報告(富山;佐伯 肇) 京都北山残土投棄反対運動(京都;宮永幸男) 比良山系の自然保護(滋賀;有田 亮)				
集会決議	比良山の自然を守る決議 日高中央横断道路計画に反対する決議		奥鬼怒スーパー林道延長工事反対の決議 84 比良山集会宣言		
集会の特徴	自然保護運動の先進的な大都市近郊で開かれた集会で、最大規模の集会となった。内容も組織内の運動の広がりを反映し、身近な自然の保護や産業廃棄物問題から地球的な規模の自然保護問題まで対象が広がった。集会用に始めて印刷製本した資料集が準備され、これまでの集会の歩みがまとめられた。				

全国登山者自然保護集会概要 (1987) 第6回 おくきぬ集会

期 日	1987 . 6 / 26-28	場 所	栃木県 日光市総合会館	参加者数	177 人
主 管	栃木県連盟	後 援	日光市		
日 程	26 日 10:00 調査登山 19:00 交流会 (日光沢温泉) 27 日 AM 日光へ移動	27 日 13:00 記念講演・基調報告 16:00-16:00 分科会 19:00 特別報告 20:30 交流会	28 日 9:00-11:00 分科会 10:30-13:00 閉会集会		
調査登山	奥鬼怒スーパー林道から奥鬼怒湿原 (60 人) 先発組は女夫淵から奥鬼怒湿原まで、後発組は女夫淵からのスーパー林道だけの視察とし、その日は「日光沢温泉」に宿泊。スーパー林道は「加仁湯」まで完成しており、工事は対岸に及んでいた。「加仁湯」周辺の変貌が著しい。終日雨で特に夕方より強くなり先発組はびしょ濡れで下山。翌日は旧登山道を女夫淵まで下り、マイクロバスで日光に移動。				
記念講演	林野行政と奥鬼怒森林開発 (宇都宮大学教授；藤原 信) 国有林経営の経過と問題点、独立採算制の問題点や奥鬼怒開発計画にふれ、今後、奥地林の伐採、景勝地の売却、森林保育の手抜きが心配されることなどについて講演。				
基調報告	知床国有林伐採と反対運動 (北海道；室岡 昇) 知床国有林伐採問題の経過と 4 月の斜里町町長選挙で伐採反対派の町長が誕生したことによる局面の転換、労山の取り組み、伐採問題の本質、百㎡買い取り運動の内容や自然保護団体結束の教訓等について報告。 国立公園における過剰利用 (青森；蒔苗政義) 北八甲田スキー場開発計画と問題点反対運動について。 清掃登山と経過報告 (群馬；茂木修一) 4 年間の赤城山清掃登山の経過と運動の P R、自治体への働きかけについて。 「入山料」と自然保護 (全国連盟；鈴木貫太) 林野庁のレクリエーションの森有料化 (入山料) 構想とその問題点、導入反対の運動経過報告と、今後予想される当局の自治体締め付けと反対運動の展望について。				
分 科 会	林野行政と自然保護 山岳自然保護における国有林の占める役割、国有林の伐採問題、国有林の独立採算制問題、「入山料」のような利用者負担構想の浮上等。 新たな観光開発の波 リゾート法に代表される最近の観光開発の動向や、尾瀬のようなオーバーユース地域の利用のあり方、施設建設には反対はするができてしまうと利用してしまうことの是非等。 清掃登山の展望 清掃登山の直接的な意義と自然保護運動に果たす役割等。				
特別報告	首都圏央道建設から高尾山を守ろう (東京三多摩；田上千俊) 鼻高山林道建設と自然保護 (島根；岩崎和久) 林野行政と自然保護 (東京；大山) 奥鬼怒スーパー林道延長工事反対運動 (栃木；高村文夫)				
集会決議	奥鬼怒の自然を守る決議 「入山料」徴収計画の撤回を求める決議 87 おくきぬ集会宣言				
集会の特徴	100 人規模で準備したのに参加者が大幅に上回り、宿泊や集会準備で主管者を慌てさせた。この集会では林野行政の問題に初めて焦点を当てた。また、労山としてのこれまでの自然保護運動を総括し、運動の指針とすることを狙った『自然保護運動における登山者の役割と展望 “素案”』を明らかにした。				

全国登山者自然保護集会概要 (1989) 第7回 おおくえ集会

期 日	1989 . 9 / 15-17	場 所	宮崎県 日之影キャンプ村	参加者数	230 人
主 管	労山九州地方協議会	協力団体	宮崎県北の自然を考える会、ささゆりの会等 14 団体		
日 程	15 日 13:00 基調報告、記念講演 17:00 経験報告 20:30 交流会	16 日 7:00 調査登山 19:00 特別講演 20:00 調査登山報告	17 日 8:00 現地報告 10:20-11:00 閉会集会		
調査登山	釣鐘山、五葉山、傾山（44 人） 大崩山（77 人） 総勢 194 人が 4 つのコースに分かれて参加する大規模な調査登山。山が深く素晴らしい原生林に接することができたが、宮崎県側で伐採が進んでいるのを目にした。大崩山コースでジバチの大群に襲われ多数の参加者が刺され、1 人がショックで動けなくなり参加者が力を合わせて深夜にかけて搬出するという事件もあった。				
記念講演	自然保護の思想と課題（九州大学助教授；H C くさばけ会員；深尾清造） 林野庁の森林生態系保護地域設定、リゾート法と地球規模の環境問題、人間と自然の共生の思想等について講演し、自然保護の課題として環境政策の課題や欠陥、住民運動成功の条件、内発的な開発の必要性、住民参加制度等についてふれ、これまでの経験から住民運動が大きな鍵を握っていることを強調する。				
特別講演	カワウソの話（延岡市在住；佐藤忠郎） カワウソのユーモラスな生態の紹介と、絶滅したといわれるカワウソを追っている話。				
基調報告	自然保護をめぐる状況と登山者の運動（全国連盟自然保護委員長；鈴木貫太） 当面の自然保護の大きな課題が、国有林の保護とリゾート開発、入山料の 3 つであることを述べ、自然保護に金をかけない政策のもとで相互に関連して問題になっていること。労山の自然保護運動の歩みと役割、展望等について報告する。 おおくえ集会実行委員会の経過について（集会実行委員会；吉野和記） 九州の自然保護運動と今集会に至る経過を紹介。また、大崩山群の自然の概要を紹介し、この山は九州における登山者の心のふるさとであり、自然保護の最前線であることを報告する。				
経験報告	冬季オリンピックと自然保護（長野；今井邦男） リゾート開発構想のもとに岩菅山が五輪候補地として開発されようとしている。この問題点を指摘し、開発の見直しを求める運動の紹介。 大野ヶ原原生林保護運動（愛媛の山を守る会；古川一郎） 愛媛県大野ヶ原のブナ原生林伐採計画を地元住民と協力して中止させた経験報告。 夕張岳スキー場反対運動（北海道；大西洋一） リゾート開発計画と夕張岳保護について。				
現地報告	五家荘の自然を守る運動（熊本；江口 司） 高良山ゴルフ場建設反対運動（福岡；増田正行） 綾町の照葉樹林を守る運動（宮崎；大隈益男） 内大臣国有林を守る運動（熊本；中村益行） 祖母・傾・大崩山系の原生林伐採反対運動（宮崎；猪須克巳） この地域の自然保護問題と登山道整備の活動。九州では絶滅したといわれるツキノワグマが最近になって生息が確認されたので自然保護運動の手段として追っている活動の紹介。 媒水水源林伐採反対の訴え（宮崎；佐保満男）				
集会決議	祖母・傾・大崩山系の原生林を守るための決議 尾瀬「入山料」計画の撤回を求める決議 89 おおくえ集会宣言				
集会の特徴	九州における自然保護最大の課題である大崩山周辺の原生林保護をテーマに、労山と九州の自然保護団体による実行委員会の共催とした。集会にあたっては、九州各県にも実行委員会を組織し、各県の多くの団体や地元自治体の協力で取り組み、参加者数がこれまでの集会の最大規模に膨れ上がった。国有林、リゾート、入山料が焦点となったが、分科会を設けられなかったので参加者の発言の場が制限された。				

全国登山者自然保護集会概要 (1992) 第8回 東京集会

期 日	1992 . 6 / 27-28	場 所	東京都 利光 っ記念青少年セター	参加者数	42 人
主 管	全国連盟				
日 程	27 日 13:00-17:00 基調報告、基調講演、特別報告			28 日 9:00-12:00 各地の報告、討議、まとめ	
基調報告	登山の社会的文化的な価値と登山の自然保護運動の方向（全国理事会；安藤英典） 20 回総会方針を具体化する場として研究集会的にした。豊かな登山の発展には山岳自然の保護が基礎であるとした上で、自然保護関係の現行法を積極的に活用して山岳自然を守る武器とすること。調査登山の実施で登山者の特質を生かした運動の展開を呼びかける。				
基調講演	日本の自然保護法制の現状（日本弁護士連合会公害対策環境保全委員会；菅野庄一） 自然保護関連の法の紹介。問題点として、貧弱な保護地域の指定、経済優先の森林法、観光第一の自然公園法、学術的保護に過ぎる自然環境保全法、規制の不徹底、国民の権利が確立されていない、ことを紹介する。問題解決の方向としては、地域指定や環境庁権限の強化、環境アセスメントの法制化、監視と制裁の強化、自然共有権の確立、税制における改善、自然保護教育等をあげる。				
特別報告	白神山地・自然環境保全地域してまでの運動の教訓 （白神山地のブナ林を守る会事務局長；奥村清明） 82 年 5 月以来 10 年に及ぶ白神山地のブナ林を守る運動の結果、90 年 3 月に林野庁の森林生態系保護地域に、92 年 7 月に環境庁の自然環境保全地域に指定され、世界遺産条約の候補地にも推薦になる予定であることを説明する。この背景には全国のブナ林保護運動と、マスコミの支援があったからという。自然保護運動の成否は多数派になることや、人類の最大の遺産は知性であり、その源がブナ林であることを強調する。 鳥海山乱伐阻止の運動（鳥海山の自然を守る会代表・酒田勤労者山岳会会長；池田昭二） 国土計画(株)による鳥海山の大規模スキー場計画と、困難であったが粘り強い反対運動によって地元住民を動かすようになり、町長から「守る会と話し合いがつくまで見切り発車はしない」という回答を引き出した。しかし、町と国土計画(株)は「商標登記」を済ませ、環境アセスメントも近く完成の段階にある。守る会は住民と連携しながら白紙撤回の運動を強化していることを報告する。愛息の事故死直後という中での講演であった。				
集会の特徴	今回は、研究集会的にするということで、前回までの集会と異なり、全国連盟が主管となり恒例の調査登山も実施しなかった。法律の専門家の講演や自然保護運動の画期的な活動の紹介は、参加者数こそ少なかったが、内容的には充実していた。参加者数が少なかったのは、準備不足が原因であることは否めない。				

全国登山者自然保護集会概要 (1995) 第9回 白神集会

期 日	1995 . 6 / 9-10	場 所	秋田県 八森町「青少年の家」	参加者数	114 人
主 管	秋田県連盟・奥羽地方協議会				
日 程	9 日 7:30-18:30 調査登山 19:00-21:00 基調講演 現地調査報告	10 日 9:00-9:45 基調報告 10:00-10:45 基調講演 11:00-12:30 各地の報告 13:30-17:30 分科会	11 日 8:45-10:15 分科会 10:30-11:45 閉会集会	18:30-20:30 懇親会	
調査登山	黒崎から白神岳(45 人)、 八森から二ツ森(20 人)、弘前から天狗岳(21 人) 白神岳はシンボルのな存在で登山者が急増しているところ、二ツ森は秋青林道が主稜線近くまでつくられて延長が凍結されたところから登るピーク、天狗岳は原生自然の核心的なところである。オーバーユースや登山者のモラルが問題にされ有力な入山禁止の理由とされてきたが、実態は認められなかったが、白神岳避難小屋のトイレが問題になった。				
基調講演	白神山地の自然と保護運動（白神山地のブナ原生林を守る会理事長；鎌田孝一） 四季折々の白神山地をスライドで紹介し、白神山地を保護するには入山規制が必要であり、急増している入山希望者にマナーを守らせるにはガイド付登山が必要であると主張。 白神山地立入り禁止と自然保護（元白神山地の自然を守る会代表・登山家；根深 誠） 白神を守ったのは地元住民や登山者であることを力説し、自然と接触することや生活の場として活用することで自然は守れると主張し、入山規制やガイド付登山を批判した。				
基調報告	登山者の運動に確信をもち山岳自然保護の運動を強化しよう（自然保護委員長；鈴木貫太） 1970 年代からの登山者の果たした役割を評価すると共に、山岳自然保護の当面の課題は国有林の保護で、森林生態系保護地域の設定は評価するが、設定地域外の荒廃の恐れや、3 兆円にもなる累積債務対策の自主努力による土地売却や開発が懸念されること。白神山地入山禁止問題は登山行為が自然保護と矛盾するかが問われていること。入山禁止や入山料構想は自然破壊の原因を登山者に転嫁しようとするものであり、運動に分裂と対立をもちこんでいること。オーバーユースの問題は登山者自身の課題でもありローインパクトの登山を推進する必要があること等を訴えた。				
分 科 会	登山行為と自然保護 登山者の自然保護運動の評価と展望 2 つの分科会では、白神山地ではオーバーユースの実態が認められなく、一方的な入山禁止やガイド付登山に批判的な意見が大勢をしめた。また、清掃登山を積極的に評価する発言が多く、様々な課題も明らかにされた。オーバーユースの実態についても各地から報告があり「オーバーユース対策は緊急の課題であり、政策要求と同時に登山者自らの課題である」ことでも認識が一致した。				
各地の報告	21 世界自然遺産と自然保護（全国理事；野口信彦） 22 九州の森林生態系保護地域など保護林の指定と諸問題（熊本；西村秋二） 23 六甲山からゴミを一掃する運動の成果と展望（兵庫；原 金房） 24 地元としての白神山地の自然保護問題（秋田；見上 浩） 25 岩木山弥生スキー場開発計画について（青森；斉藤周三郎）				
集会決議	95 白神集会宣言 *他に秋田、青森、岩手三県の代表で、白神岳に世界遺産に相応しいトイレを要求することを決議。				
集会の特徴	“ 登山活動と自然保護 ” をメインテーマに、世界自然遺産の登録で保護対策や「入山禁止」で注目されている白神山麓で集会を開き、現地踏査をふまえて入山禁止の是非やオーバーユース対策を話し合う集会となった。蒲田孝一氏と根深誠氏は共に白神山地の自然保護の中心的な役割を果たしながら「入山禁止」の是非をめぐる厳しく対立している。この 2 人に基調講演していただき、双方の主張を聞いて話しあったのは特筆できる。 集会では入山禁止問題に加えて、オーバーユース問題が大きく取り上げられ、ローインパクトの登山が話題となり、分科会の中で“ オトシガミ ” 持ち帰りも話題となった。				

全国登山者自然保護集会概要 (1998) 第10回 兵庫集会

期 日	1998 . 10 / 31-11 / 17	場 所	神戸市「みのたにグリーンスポーツホテル」	参加者数	237 人
主 管	兵庫県連盟				
日 程	31 日 13:15 基調報告 14:30 特別報告 16:00-17:50 意見発表 19:00-22:00 夕食・交流会 1 日 8:00 意見発表 10:40-11:20 閉会集会 13:00 ~ オプションツアー				
オプション ツアー	集会後にオプションツアーとして、武庫川ダムコース、六甲山最高峰コースを設定した。 武庫川ダムコースは、兵庫県連として取り組んでいるダム建設反対運動の現地を視察するものである。				
基調報告	ふるさとの山と緑を守り育てよう！（自然保護副委員長；後藤功一） 総会方針では「21 世紀の登山のあり方は、山岳自然との調和のとれた共存・共生のあり方の探求にあり、山岳自然とのつきあい方のルール確立が課題である」としており、この方針を具体化することが重要である。とした上で、25 周年を向かえたクリーンハイク運動の成果や地球温暖化問題、当面の自然保護の課題について報告。				
特別報告	滋賀県における自然保護運動の広がり（滋賀県連会長；寺川庄蔵） 滋賀県連として 1973 年に始めた清掃登山運動を足がかりに、「比良の自然を守る連絡会」「琵琶湖自然環境ネットワーク」で重要な役割を果たしている経験報告。 ポンポン山ゴルフ場反対運動とその後（京都府連会長；土田伸隆） 兵庫における山岳自然保護運動の歩み（兵庫県連自然保護委員長；村上悦郎） 10 月 4 日に「六甲山からゴミを一掃する運動」20 周年記念集会を開き、知事表彰も得たと報告。県連として取り組んだ「氷ノ山の自然を守る運動」「芦屋ロックガーデン階段化反対運動」「芦谷川の自然を守る運動」等を総括し、「武庫川ダム反対運動」の取り組み報告。 三俣山荘撤去命令撤回を求める裁判闘争（三俣山荘オーナー；伊藤正一） 林野庁による「三俣山荘撤去命令」問題と林野行政と戦う決意の表明				
意見発表	立ち枯れる近畿の屋根「台高・大峰山脈」（奈良；前 圭一） 立ち枯れの現状報告。原因として酸性雨、鹿による食害、原生林の伐採をあげ、対策に言及 武庫川ダム問題を考える（兵庫；安留紘一） 利水目的のダムは必要性、ダム建設の問題点等を指摘し、総合治水対策を訴える 里山の緑をよみがえらせる活動（兵庫；松井光利） 妙見山の清掃登山にはじめて取り組んで（大阪；池田 茂） 大万木林道建設の経過と現状（島根；安田 晃） 林道建設計画の経緯と存在意義を問い、建設中止を訴える 高尾山トンネル掘削反対運動（東京；矢部弘幸） 宮城県ブナ林伐採反対運動（宮城；中井輝吉） 和歌山他 5 件				
まとめ	討論の特徴と労山山岳自然保護運動の発展方向（自然保護委員長；江川節雄） 自然保護世論喚起、2 万 5 千人のスケールメリットを生かした活動、自治体や政府交渉、他団体との協力・共同、自然保護憲章づくりの運動等を提起。				
集会の特徴	自然保護活動で先駆的な役割を果たしてきた県連であるがの主管で大規模な集会となったが、分科会等は持たなかった。集会では地球環境の問題やオーバーユース問題、登山と自然の共存がクローズアップされた。 兵庫県連は、1995 年 1 月の大震災で多くの会員も被災したが、加盟団体は組織を再建してこの集会を主管し、間接的に健在ぶりをアピールした。				

全国登山者自然保護集会概要 (2001) 第 11 回 東京集会

期 日	2001 . 6 / 30-7 / 1	場 所	東京都 神楽坂・エミール	参加者数	40 人
主 管	全国連盟				
日 程	30 日 13:00 - 19 : 00 開会挨拶 来賓挨拶、記念講演、基調報告 地方連盟報告			1 日 10:00 - 12:00 地方連盟報告、質疑討論 討議のまとめ	
来賓挨拶	山のトイレさわやか運動本部事務局長；上 幸雄 HAT-J（ヒマラヤ・アドベンチャートラスト・オブジャパン）理事長；神崎 忠男				
記念講演	21 世紀の山岳と人について考える（山岳ジャーナリスト 江本嘉伸） “ 山と生きよう・LIVE WITH MOUNTAIN ” - 2002 年の国際山岳年に向けて - 講演				
基調報告	登山と自然の共存・共生のルールをつくりましょう（自然保護後委員長；江川節雄） 来年の国際山岳年を迎えるに当たって、江本嘉伸氏のコーディネイトにより山岳 5 団体で何ができるか検討している。労山はクリーンハイク運動 30 年を迎えるので、富士山クリーンハイクを行い「富士山宣言」を出して登山と自然保護ルールづくり呼びかけたいと考えている。 今期の自然保護情勢の特徴は、環境省の百名山歩道整備事業が実施段階をむかえたことである。労山はクリーンハイク運動で培った活動を反映させて国民が主人公のナショナルパークづくりに寄与していきたい。長野県の田中知事の脱ダム宣言を表明し大きな波紋を広げた。労山も無駄な公共事業反対運動を前進させたい。				
地方連盟 報 告	早池峰山頂トイレ構想について；岩手県連盟 菅沼賢治 船形山のブナ林保護運動の成果と日米軍事演習問題について；宮城県連盟 仲井輝吉 七里川・追原ダムの建設中止とかちとった運動；千葉県連盟；う沢喜久雄 田中知事の「脱ダム宣言」を支持する脱ダムネットワーク参加と今後の課題；長野県連盟 佐藤昭男 鈴鹿山系清掃登山(愛知・三重共催)の報告について；愛知県連盟 鈴木 行薫 台高山脈三之公(さんのこ)原生林の伐採と保全の動き；奈良県連盟；前 圭一 大阪府連盟が実施したNO ₂ 測定(特に山岳地帯の測定について)；大阪府連盟；池田 茂 C(清掃・水質調査)& G(植樹)活動・武庫川渓谷をダム建設から守る運動；兵庫県連 村上悦郎 三嶺ロープウェイ建設計画撤回に！；徳島県連 久米英俊 全国一斉清掃登山の取り組みについて；香川県連盟				
集会の特徴	2002 年の国際山岳年を迎えるの当たって、山岳 5 団体共同の事業を意識し、来賓を招き記念講演を実施したが、規模は小さく内部的な集会となった。山岳トイレ問題もクローズアップされた。				

全国登山者自然保護集会概要 (2003) 第12回 京都集会

期 日	2003. 10 / 11-12	場 所	京都市 京都タワーホテル	参加者数	304 人
主 管	京都府連盟	協力団体	近畿地方協議会	後援	京都市、京都新聞社
日 程	11 日 12:30 開会集会 12:45 問題提起 13:00 各地報告	16:40-18:10 特別分科会 19:10 夕食交流会	12 日 9:00 分野別分科会 11:15 全体集会 13:00～ オプションツアー		
オプション ツアー	集会後のオプションツアーとして2つのコースを設定し、大文字山（12 日午後）に 45 人、芦生の大杉（1 泊 2 日）に 21 人が参加した。				
問題提起	労山自然保護憲章を考える（自然保護副委員長；後藤功一） いま何故労山が独自の自然保護憲章をつくろうとしているかについて問題提起し、基本的な視点や憲章の原則、山岳自然保護運動の課題等について報告。自然保護憲章制定委員会を立上げ全国的な討議を経て 2 年後の自然保護集会までに原案を提示し、その後の全国総会で制定を目指すことを提起する。				
各地報告	日高横断道建設中止を求めて（北海道；今野平支郎） 携帯トイレの山をめざして（岩手；村山正三） 丹沢の自然保護報告（神奈川；池野 正） 愛知での自然保護活動（愛知；佐々木建壽） 白山の現状と自然保護活動（石川；山本俊和） ポンポン山ゴルフ場建設反対運動（京都；大槻裕治） 大台・大峰山脈の立ち枯れ、シカの食害（奈良；前 圭一） NO2 想定と酸性雨（大阪；池田 茂） 武庫川ダム反対運動（兵庫；安留紘一） 三嶺のロープウェイ問題と自然保護運動（徳島；久米英俊）				
特別分科会	「労山自然保護憲章を考える」をテーマとするパネルディスカッション パネラー；福田陽一（石川） 村上悦郎（兵庫） 久米英俊（徳島） 小川 潔（東京学芸大学） 野口信彦（労山事務長） コーデネーター；鈴木貫太（元自然保護委員長） 自然保護憲章制定委員の代表がパネラーとなって、憲章制定の一環として山岳自然保護についての様々な課題や認識について浮き彫りにすることを目的とし、具体的な活動をもとに自然保護に対する認識、登山行為と条件の整備、オーバーユース対策等について総括的に議論した。				
分 野 別 分 科 会	入山規制と入山料を考える（18 人） 各地のオーバーユースの実態が報告され、登山の自由を守る見地から議論された。 ふるさとの山とクリーンハイク、トイレ問題（55 人） 各地のクリーンハイク運動の取り組みと課題、携帯トイレ運動の経験報告等。 ツアー登山とオーバーユースおよびローインパクト登山(46 人) ツアー登山参加の経験報告や、オーバーユース問題、ローインパクトの登山、条件整備等。 自然保護運動と脱ダム宣言、公共事業（36 人） 費用対効果で中止になった島根のスリッパ林道事例、無駄な公共事業が継続されている事例等。 森林破壊と酸性雨問題（20 人） 車の排気ガス《窒素酸化物》による立ち枯れ問題、酸性雨、土壤汚染の問題を中心に議論。 日本の自然保護運動と地球温暖化問題（39 人） 地球温暖化に伴う様々な自然への影響が指摘され、登山者の役割は何かについて議論。				
集会の特徴	集会のメインテーマを「山岳自然保護憲章」制定をめざした討議とし、この主旨に沿って、主催者による問題提起やパネルディスカッションが行われ、これを受けて分科会の議論が行われた。告発形になりがちなこの種の集会在テーマに沿った集会になったのが、この集会の最大の特徴である。この集會を機会に「山岳自然保護憲章」制定に歩み始めたことも特筆される。 なお、この集會は主管団体の努力と地の利があつて、一連の集會の中で最大規模の集會になった。集會では 16 人の憲章制定委員が紹介された。				

